

「健やか親子 21 & 次世代育成支援研修会」 in 福岡

2004・1月26日(月)



厚生労働省科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業

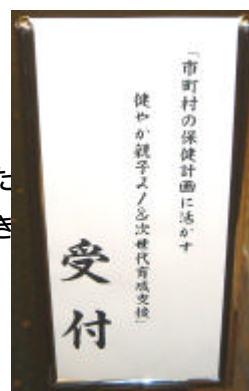
「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」班

主任研究者：山縣然太郎

分担研究者：松浦賢長

1. はじめに(松浦)

新世紀の母子保健を担う新たな考えとして策定された「健やか親子 21」を推進していく上で、計画や事業を策定する段階において、数値評価を取り入れた新しい考えをまわりに理解してもらいにくい。本当に役立つ事業を展開していきたいが、事業の見直し方が分からなかったり、市町村の合併問題があるなど、問題が多々ある。また、次世代育成支援対策法が成立し、担当者に課せられた課題は大きなものである。このような中、今回の研修会を有意義なものとしてご参加いただいた皆様には、何かを習得していただきたい。



目的

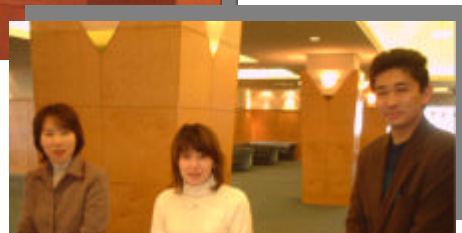
「健やか親子 21」の新しい考え方を取り入れた保健計画をいかに企画するか。「健やか親子 21」公式ホームページを活用し実際の方法を習得する。

次世代育成支援対策計画に、母子保健担当者がどのように関わっていくか、母子保健計画・事業の意義を知る。

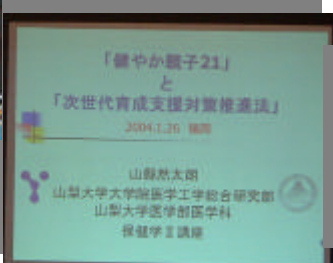
それぞれの市町独自の課題に関する質疑応答。

講師紹介

| | | | |
|-------|-------------|----|------|
| 山縣然太郎 | 山梨大学医学部保健学 | 講座 | 教授 |
| 松浦 賢長 | 福岡県立大学地域看護学 | 教授 | |
| 森山 浩司 | 福岡県立大学地域看護学 | 助手 | |
| 樋口 善之 | 福岡県立大学地域看護学 | 助手 | |
| 白石 裕子 | 山梨大学医学部保健学 | 講座 | 大学院生 |
| 葉袋 淳子 | 山梨大学医学部保健学 | 講座 | 大学院生 |



2. 「健やか親子 21」と「次世代育成支援対策推進法」について(山縣講演)



1-1 健やか親子 21 の性格

21 世紀の母子保健の主要な取り組みを提示するビジョンであり、かつ、関係者、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画

安心して子どもを産み、ゆとりを持って健やかに育てるための家庭や地域の環境づくりという少子化対策としての意義

少子・高齢社会における健康な生活の実現を目指す「健康日本 21」の一翼

2001 年から 2010 年（2005 年に評価と見直し）

1-2 基本視点

20 世紀中に達成した母子保健水準を低下させない努力

21 世紀中に達成し切れなかった課題を早期に克服

20 世紀終盤に顕著化し、21 世紀にさらに深刻化することが予想される新たな課題に対応

新たな価値尺度や国際的な動向を踏まえた斬新な発想や手法により取り組むべき課題を探索

1-3 「健やか親子 21」の課題設定

1. 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
2. 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援
3. 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備
4. 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

1-4 「健やか親子 21」の推進方策

1. 基本理念

1986 年の WHO 国際会議で提唱された公衆衛生戦略であるヘルスプロモーションにおく

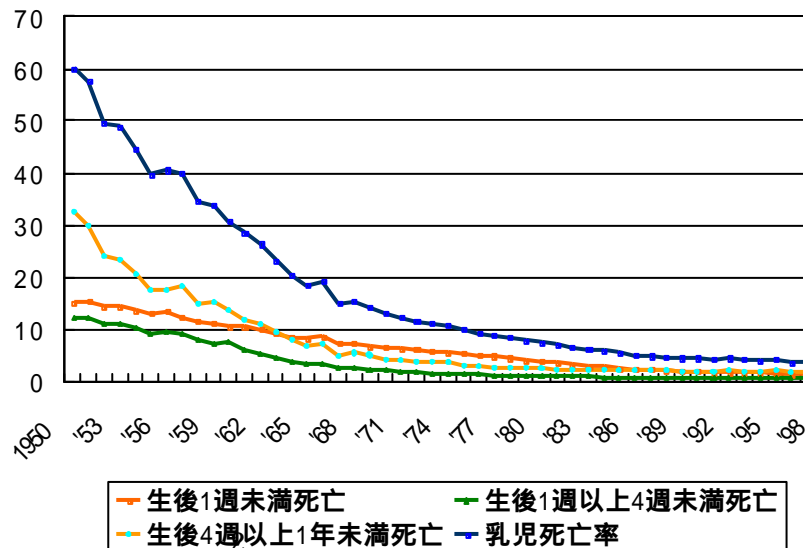
2. 推進方策

各団体の取り組み内容の明確化と自主的活動の推進

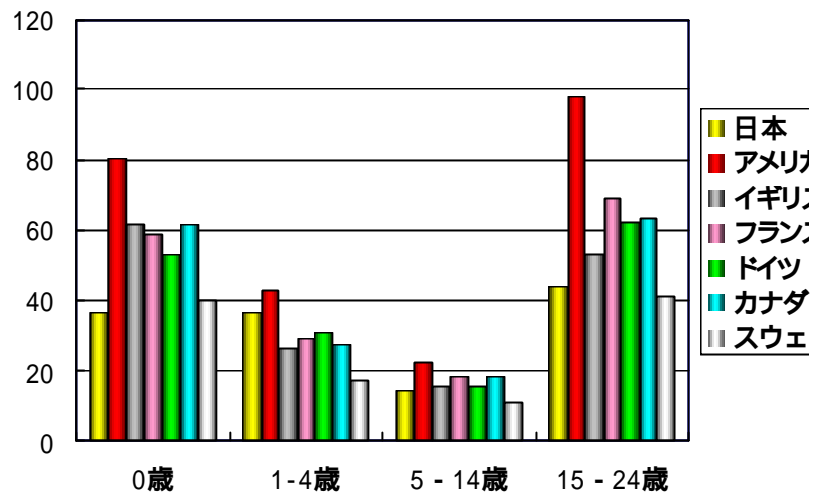
「健やか親子 21 推進協議会」の設置

具体的課題を明確にした目標の設定

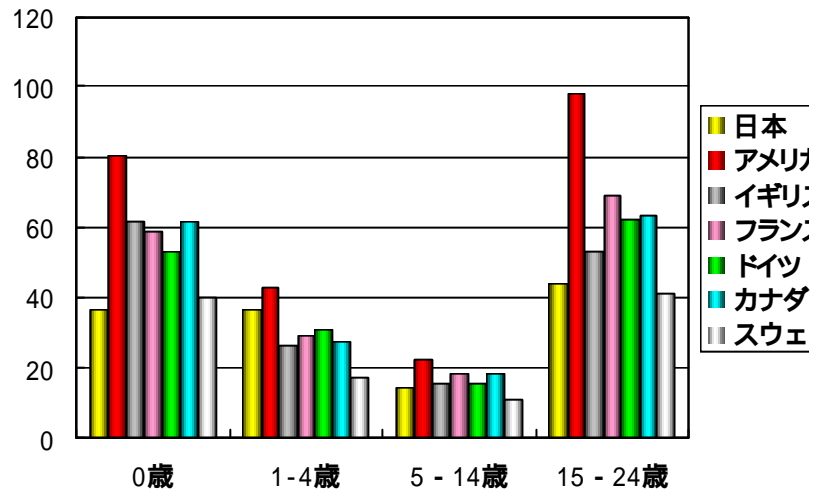
乳幼児死亡率の年次推移



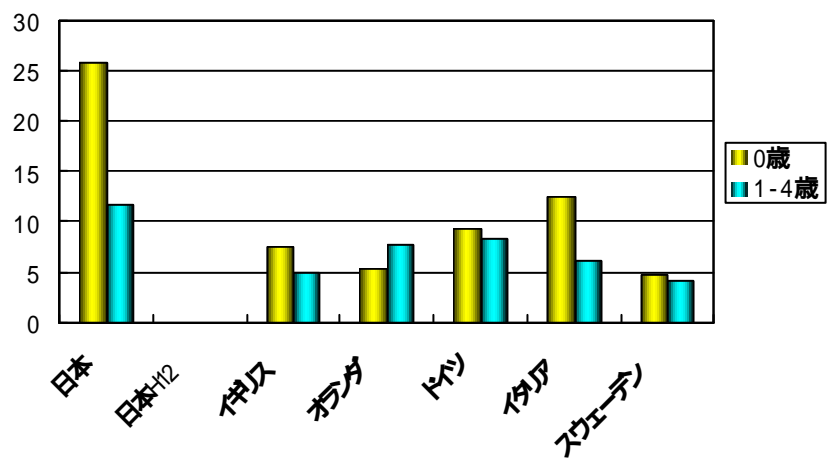
乳幼児死亡の国際比較



乳幼児死亡の国際比較



不慮の事故による乳幼児死亡の国際比較



1-4 「健やか親子 21」の推進方策

1. 基本理念

1986年のWHO国際会議で提唱された公衆衛生戦略であるヘルスプロモーションにおく

2. 推進方策

各団体の取り組み内容の明確化と自主的活動の推進

「健やか親子 21 推進協議会」の設置

具体的課題を明確にした目標の設定

2-4 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

1. 問題認識

母子保健での心の健康は

1) 両親の育児不安・ストレスと子どもの心の関係

2) 児童虐待に代表される親子関係

乳幼児期の子どもの心の発達は、一番身近な養育者（母親）の心の状態と密接に関係があり、乳幼児期の子どもの心の健康のためには母親が育児を楽しめるような育児環境の整備が不可欠。母親の不安を軽減し、育児を楽しみ、子どもの豊かな心の成長を育むための取り組みを全国的に総合的に取り組むことの必要性

2. 取り組みの方向性

育児に焦点を当てた心の問題の観点からのケアシステムの構築

母子健康手帳の交付から始まる地域母子保健と、妊産婦健診から始まる地域医療との融合、連続性の担保

地域保健・地域医療での対応が児童虐待の予防と早期発見及び再発予防に大きな役割を果しうることの認識を持つこと

2-4 具体的な取り組み

(1) 子どもの心と育児不安対策

地域母子保健を育児支援の観点から見直す。乳幼児健診を親子関係、親子の心の状態の観察、育児交流の場として活用

保健所はハイリスク集団の衆参記から退院後のケアシステムの構築と福祉分野との連携、民間育児グループの育成を図る

産科は妊婦の育児への意識、不安のチェックと地域保健、小児科との連携により、親子の愛着形成を促進する

小児科は子どもの心の問題に対応できる体制を整備する

(1) 児童虐待対策

保健所・市町村保健センター等では児童虐待対策を母子保健の主要事業の一つとして明確に位置付け、積極的な活動を展開

医療機関と地域保健が協力し、被虐待児の発見、救出した後の保護、再発防止、治療、親子関係の修復、長期のフォローアップの取り組みを進める

これらの活動にあたっては児童相談所、情緒障害児短期治療施設等の福祉関係機関、警察、民間団体との連携を図る

取り組みの目標（例示）

思春期の保健対策の強化と健康教育の推進

保健水準の指標

10代の自殺率 15-19歳代 7.1/100,000 減少

10代の性感染症罹患率 調査 減少

住民の行動の指標

薬物乱用の有害性について正確に知っている児童生徒

の割合 調査 100%

10代の喫煙率 高校3年男 36.9% 女 15.6% 0%

行政・関係機関等の取り組み

学校保健委員会を開催している学校の割合 調査 100%

スクールカウンセラーを配置している中学校の割合 100%

思春期外来の数 調査 100%

もう一段の少子化対策「次世代育成支援対策推進法」

少子化対策推進基本方針（平成11年12月）

新エンゼルプラン

仕事と子育て両立支援対策方針

待機児童ゼロ作戦

少子化対策プラスワン（平成14年9月）

次世代育成支援対策推進法

男性を含めた働き方の見直し

地域における子育て支援

社会保障における次世代支援

子どもの社会性の向上や自立の促進

背景と趣旨

晩婚、未婚化に加えて「夫婦の出生力そのものの低下」に対する、もう一段の対策を推進することが必要

15年3月：次世代育成支援に関する当面の取組方針

15年7月：次世代育成支援対策推進法

17年3月までに：市町村行動計画、都道府県行動計画、一般事業主行動計画、特定事業主行動計画の策定

基本的な事項

基本理念

父母その他の保護者が子育ての第一義的責任者であり、子育ての意義についての理解を深め、子育てに伴う喜びが実感されるように配慮する

策定の目的

10年間の集中的・計画的取り組みを推進するために目標、内容、実施時期を定める

関係者の連携

市町村および都道府県内の関係部局間の連携

市町村および都道府県ならびに市町村間の連携

国、地方公共団体等と一般事業主との連携

次世代育成協議会の活用

基本的な視点（市町村行動計画）

- (1) 子どもの視点
- (2) 次代の親づくりという視点
- (3) サービス利用者の視点
- (4) 社会全体による支援の視点
- (5) 全ての子どもと家庭への支援の視点
- (6) 地域における社会資源の効果的な活用の視点
- (7) サービスの質の視点
- (8) 地域特性の視点

必要な手続き（市町村行動計画）

- (1) 現状の分析
- (2) ニーズ調査の実施
- (3) 住民参加と情報公開

策定の時期（市町村行動計画）

- (1) 平成17年3月までに策定
- (2) 5年を1期
- (3) 21年に見直しをし、22年から26年の計画を策定

点検と推進体制（市町村行動計画）

- (1) 全庁的な体制の下に、各年度においてその実施状況を一括して把握・点検する

- (2) 毎年少なくとも1回は、実施状況を公表する：広報誌、ホームページなど（第8条第5項）
- (3) 住民の意見を聞き、見直しに反映させる

内容に関する事項（市町村行動計画）

(1) 地域における子育て支援

地域における子育て支援サービスの充実

児童及びその保護者またはその他の居宅において保護者の児童の養育を支援する事業

保育所の他の施設において保護者の児童の養育を支援する事業

地域の児童の養育に関する各般の問題につき、保護者からの相談に応じ、必要な情報の提供および助言を行う事業

市町村における子育て支援事業に関する情報提供、相談及び助言ならびに斡旋、調整および要請等の実施

保育サービスの充実

子育て支援ネットワークづくり

児童健全育成

その他 高齢者の参画など



(2) 母性ならびに乳児および幼児の健康の確保及び推進

「健やか親子21」の趣旨を十分踏まえたものとする

子どもや母親の健康確保

食育の推進

思春期保健対策の充実

小児医療の充実

(3) 子どもの心身の健やかな成長に資する教育環境の確保

(4) 子どもを育成する家庭に適した良質な住宅及び良好な居住環境の確保

(5) 職業生活と家庭生活との両立の推進

(6) 子どもの安全の確保

(7) 要保護児童への対応などきめ細かな取り組みの推進



今、何をすべきか？

次世代育成支援対策地域協議会（地域協議会）への参加

福祉担当者との連携

ニーズ調査結果の検討

地域住民のニーズ

母子保健計画、児童育成計画、保育計画、地域福祉計画などとの整合性

子育て支援 NPO との連携

「健やか親子21」公式ホームページ

- 母子保健計画の2010年までの国民計画運動 -



作成:2001年5月18日
更新:2004年1月15日
00191175

| | |
|---------------|-----------------|
| 「健やか親子21」について | イベントと研修会情報 |
| 取り組みのデータベース | 母子保健・医療情報データベース |
| 取り組みの目標値 | 地方計画 |
| 推進協議会 | E-サポート |
| 学校保健 | リンク |

サイトマップ

トピックス

- 「取り組みの目標値」の活用例などをExcelファイルでアップしました。
- 1月末に密着と奈良で開催される研修会の開催を掲載しました。
- 「健やか親子21」のリーフレットを掲載しました。
- 第3回健やか親子21全国大会の概要と写真を掲載しました。
- 最新の推進協議会議事録を掲載しました。

過去のトピックスはこちら

このホームページは皆様と共に作っていくページです。

健やか親子21 取り組みのデータベース

地域や団体の取り組み(事業)を検索・登録できるデータベースです。

キーワードを入力して下さい

キーワード(簡易)検索

詳細検索

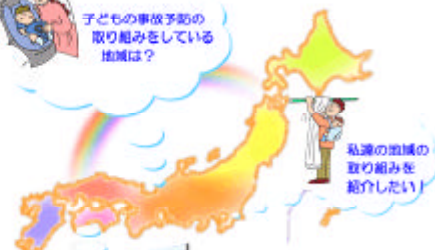
登録・修正

取り組み(事業)の登録はこちらから

- 使用の手引き
- データベースについて
- メール・リスト・GCMのご案内
- 母子保健・医療情報データベース



子どもの事故予防の
取り組みをしている
地域は?



私達の地域の
取り組みを
紹介したい!

スタッフが少なくても、
どんな取り組みができるの?

みんなで作ってみんなで活用しましょう!



健やか親子21(母子保健の2010年までの国民計画運動)に際して、厚生府、保健院、区市町村、医療機関および民間団体が実施する母子保健サービスなどの取り組みのデータベースです。関係機関における健やか親子21の進捗状況を把握するとともに、これを活用することによって、市町村間連携促進の推進を図り、健やか親子21推進に役立てることを目的としています。



取り組みのデータベースの活用

- 事業の実施
- 事業の企画立案
- 事業の評価
- 事業の見直しと新しい展開
- 事業の終了と新事業の立案

取り組みのデータベースは、各自治体の皆様
が利活用していくためのものです。
今後は是非ご活用ください。

3. 質疑応答

- ・ 管理栄養士の立場から 健やか親子は学校に対してまだ浸透が浅いので、これからどう皆に広めていくかが課題。
- ・ 情報の提供で留まっていて、まだ具体的な取り組みが紹介されていない。
- ・ 保健師より現状として 次世代計画についてようやく取り組めることになった。自分たちのしたいことがまとめられられるようになってきた。今日の講義の内容は現状にあった。保健師の考えを理解してくれる人に相談したいと思った。

福岡では守山先生に相談されると良い。

ML 交換もできます。

- ・ 次世代について何も手をつけてない状況にある。
- ・ 話合う機会があるといい。



4. 閉会の挨拶（松浦）

「健やか親子 21」取り組みの DB に是非情報のご提供をお願いいたします。

今日はお時間をとおとりいただきご参加いただきましてありがとうございました。今後とも何卒よろしくをお願いいたします。



ご参加いただいた皆様へ

福岡県立大学看護学部の松浦賢長でございます。今回は山縣班の研修会に参加していただきましてありがとうございました。保健師のかたのみならず、福祉部門の方々、そして栄養士、保育士の方々など、多方面からの参加をいただき、健やか親子 21 と次世代行動計画に対する皆様の関心の高さを伺いしることができました。このテーマに関しては、モデルとなる取り組みがすでにあるという状況ではなく、今後のみなさまの取り組みのひとつひとつが、次の世代へのモデルになっていくのだと思います。どうか、これからの取り組みのプロセスをまとめられて、またわれわれにそれをご指導いただければと思っております。今回はありがとうございました。山縣班の分担研究者ということで福岡におりますので、どうかなんなりとお気軽にご連絡いただきますようお願いいたします。

松浦賢長